

あさま山荘事件から50年目の春。当事者・目撃者らが語る
「言葉の応酬と渦巻く空気の正体」とは……？

TOKYO FM 報道特別番組

『1972-2022 あさま山荘 50年目の言葉 ～自分はどこで間違ってしまったのか～』

2022年3月26日(土)5:00～5:55 TOKYO FM

出演:小川哲 ナレーション:大後寿々花

TOKYO FMでは、3月26日(土)朝5時から、TOKYO FM 報道特別番組『1972-2022 あさま山荘 50年目の言葉～自分はどこで間違ってしまったのか～』を放送します。1972年、長野県で発生した「あさま山荘事件」から50年目の2022年、当時の事件を知る当事者・目撃者たちが今明かす時代感や事件の背景、そして現場にはびこっていた空気を、SF作家の小川哲が取材をします。取材に応じたのは、実際に山岳ベースで自身の兄を殺害された加藤倫教、当時、あさま山荘の前でカメラを構えた西田圭介、事件を担当した検事・古畑恒雄、そして『2022年の連合赤軍』の著者・深笛義也です。ナレーションは、俳優の大後寿々花が担当し、1960～70年代当時の音楽とともに綴られる、FMドキュメンタリーを、どうぞご期待ください。



1972年2月、長野県軽井沢町にある保養所「あさま山荘」に「連合赤軍」がたてこもり、警官ら3人を射殺した「あさま山荘事件」。その模様は連日テレビでも生中継が行われ、当日瞬間視聴率が89.7%と日本全国の注目を集めました。この特別番組では、事件からちょうど50年目の2022年、改めてこの事件の起こった背景と、現代にも通じるその「空気」を探るべく、事件の当事者・関係者たちへSF作家の小川哲が取材を行い、新たな物語を紡ぎます。

「総括せよ」と迫り、残酷なリンチ死を「敗北死」と言い換えた連合赤軍の指導者たちの中にあつた「言葉の応酬」。事件の担当検事で、現在は弁護士の古畑恒雄は、この言葉の応酬を、「古くは旧軍の軍国主義であり、今では困難に陥つた人を自己責任論とする歪んだ個人主義につながる」と語ります。山岳ベ-



スで自身の兄を殺害された加藤倫教は、「総括は誇張した自己暴露で露悪趣味だった。いつの間にかに革命が自己目的化した」と当時を振り返ります。

取材の最後は小川自らが、当時、山荘の前でカメラを構えた西田圭介とともに、今も残るあさま山荘に足を運びます。小川と西田は、2022年のあさま山荘の前でどんな「言葉」を発したのか。当時の音楽とともに、時代の空気と言葉のある側面に迫る、FMドキュメンタリーです。ナレーションは俳優の大後寿々花がつとめます。放送後には、放送の一部の模様をオーディオプラットフォーム「AuDee (オーディー)」でアーカイブ配信いたします。ぜひ、お聴きください。



【番組概要】

◇タイトル： TOKYO FM 報道特別番組『1972-2022 あさま山荘 50年目の言葉～自分はどこで間違ってしまったのか～』

◇放送日時： 2022年3月26日(土)5:00～5:55

◇放送局： TOKYO FM

◇出演： 加藤倫教、西田圭介、古畑恒雄、深笛義也、大後寿々花(ナレーション)

◇番組 HP: <https://audee.jp/program/show/60667>